

〔歳入〕

| | |
|--------------------|--------------|
| ① 一般社資収入(個人社費、寄付金) | 271,623,533円 |
| ② 法人社資収入(法人社費、寄付金) | 17,108,292円 |
| ③ 補助金収入 | 17,000円 |
| ④ 繰入金(資金、特別会計) | 3,600,000円 |
| ⑤ 本社交付金等 | 182,313,327円 |
| ⑥ 雑収入 | 3,526,941円 |
| ⑦ 前年度繰越 | 33,817,156円 |
| 合計 | 512,006,249円 |

〔歳出〕

| | |
|------------------------------------|--------------|
| ① 災害救護救援費、資機材費 | 27,933,134円 |
| ② 救護看護師養成費(奨学金) | 7,215,635円 |
| ③ 救急法等講習会費(救急法、水上安全法、幼児安全法、健康生活支援) | 26,546,638円 |
| ④ 赤十字奉仕団(ボランティア)活動費 | 19,569,478円 |
| ⑤ 青少年赤十字(JRC)活動費 | 28,566,045円 |
| ⑥ 社会福祉活動費(復興支援事業等) | 59,806,789円 |
| ⑦ 医療事業費、血液事業費 | 102,341,302円 |
| ⑧ 指定事業地方振興費(地区・分区(市町村)災害救援車等) | 3,600,000円 |
| ⑨ 社員募集、社資募集費 | 35,848,607円 |
| ⑩ 地区・分区(市町村)事務費、事業費 | 48,991,104円 |
| ⑪ 日本赤十字社本社活動費 | 41,854,773円 |
| ⑫ 資金等積立 | 7,039,980円 |
| ⑬ 業務管理諸費 | 51,062,896円 |
| 合計 | 460,376,381円 |

歳入歳出差引額(繰越金) 51,629,868円
※繰越金は、翌年度はじめの活動資金となります。

あなたの思いを赤十字に ~ご自分や故人の思いを広く社会に役立てるために~

日本赤十字社の行う様々な活動は国や県の補助金を受けておらず、赤十字にご賛同いただいた皆様からのご支援によって実施されます。赤十字へのご寄付は税制優遇措置がある他、ご協力いただいた金額により表彰制度を設けております。また、故人様の遺言やご遺族様からの「故人の遺産を広く社会のために役立てて欲しい」との尊いお申出に答えるために遺贈、相続財産のご寄付も承っております。赤十字だからこそできる活動へのご支援ご協力をお願い致します。



支部災害救護訓練の様子

災害救護訓練 平成29年7月8日(土)に日本赤十字社福島県支部災害救護訓練を実施しました。

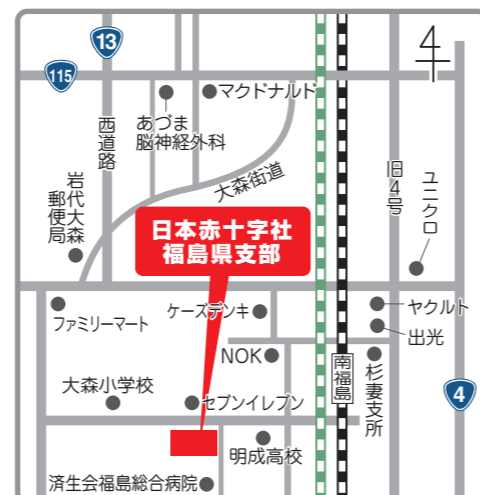
災害発生時に迅速かつ的確な救護活動を展開することを目的に、日赤福島県支部、福島赤十字病院、福島県赤十字血液センター合同で毎年開催しています。

今年度は、大原総合病院と済生会福島総合病院の職員が初めて参加し、80名が救護所を設けし傷病者の受け入れ訓練を行うなど、救護員として必要な知識と技術を習得するため真剣に取り組みました。

さらに、8月27日(日)には福島市において行われた福島県総合防災訓練に、9月13日(水)から14日(木)にかけて山形市において行われた日赤第1ブロック(北海道、東北各県)支部合同災害救護訓練等に参加しました。

今後予想される災害に備えるため、これからも救護訓練に取り組んでいきます。

日本赤十字社では
人道を胸に皆さまのいのちと健康、尊厳を
守るためこれからも活動しつづけます。



発行所 / 日本赤十字社 福島県支部
〒960-1197 福島県福島市永井川字北原田17
TEL 024-545-7997(代)
<http://www.fukushima.jrc.or.jp>

赤十字は皆さまからお寄せいただいた活動資金に支えられています

平成29年度の福島県支部事業

健康生活支援講習と認知症サポーター養成講座



いわき市開催 支援員養成講習



5月18日福島赤十字病院で開催の様子

- ◎ いわき市において10月5日(木)・6日(金)健康生活支援講習支援員養成講習(12時間)が開催され、参加者からは「車いすの使い方や介護の仕方を学び、高齢者や障がい者、認知症についてより理解が深まった。みんなにやさしくなれそう」との声がかけられました。ボランティアの方々にも好評でした。
- ◎ 福島赤十字病院では、5月から毎月認知症サポーター養成講座(90分)を開催しています。「ルールを守らないで勝手に行動してしまう人は病気だったのかも、と納得できた」家族の方も「一人で抱え込まないことを心掛けたい」という声がかけられました。
- ◎ これらの講座は、要望により(30人)県内各地で開催します。詳しくはお問合せください。
【問い合わせ】 日本赤十字社福島県支部 電話 024-545-7996

ふくしま防災フェア2017



平成29年10月28日~29日、「ふくしま防災フェア2017」が南相馬市の「南相馬ジャスモール」で開催されました。この防災フェアは、普段、防災に触れる機会の少ない親子連れやお子さんたちに、気軽に「防災」に見て、触れ、学ぶ場として、日赤県支部と福島県との共催により昨年度の福島市に引き続き、開催されたものです。

県支部のブースでは、災害時の炊き出し実演、救急法や幼児安全法の体験、救援物資・資機材・DMAT(災害派遣医療チーム)車などの展示、パネルによる熊本地震での救護活動紹介、救護所のイメージ展示、街頭献血、献血バスでの子ども向け模擬献血体験などが行われました。



災害時の炊き出し実演をする南相馬市内の地域赤十字奉仕団

平成29年度 赤十字ボランティアのつどい(第8回)

平成29年10月27日、「平成29年度赤十字ボランティアのつどい(第8回)」を郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催しました。関係者等約600名参加のもと、長年にわたり赤十字の様々な活動に尽力されている赤十字奉仕団員のみなさまへの表彰式が行われました。

また、喜多方市赤十字奉仕団委員長であり赤十字奉仕団県支部委員会の佐原和佳子委員長には「赤十字奉仕団の心がまえとその活動」について事例を発表していただきました。



佐原和佳子委員長による発表

青少年赤十字福島県指導者研修会・学校公開

平成29年10月6日に開催した学校公開は、2年間の研究推進校に指定された白河市立信夫第一小学校・大信中学校が、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」を実践してきた成果を発表するもので、授業参観や校種別分科会を通して参加された県内外の青少年赤十字指導者に意見交換していただきました。

小・中学校とも「気づき、考え、実行する」態度で、真剣に友達の発言を聞き、自分の意見を堂々と話していました。小学校では、ボランティア活動が日常化し、縦割りでの活動も行われ、他人のため、自分たちの学校のために笑顔で活動する姿が印象的でした。中学校では、子供たちのふるさとである大信地区の一員としての自覚が芽生え、地域のために何ができるかを真剣に考え実行に移している姿にたくましさを感じました。



赤十字運動月間 in 県立図書館



今年5月の運動月間は県立図書館において、赤十字の歴史や事業パネル展示会をはじめ健康講演会等の様々なイベントを催し、多くの方に足を運んでいただきました。

奉仕団委員長会議(5/15~16)開催



会議の中では、防災教室における災害図上訓練(DIG)も実施しました。